

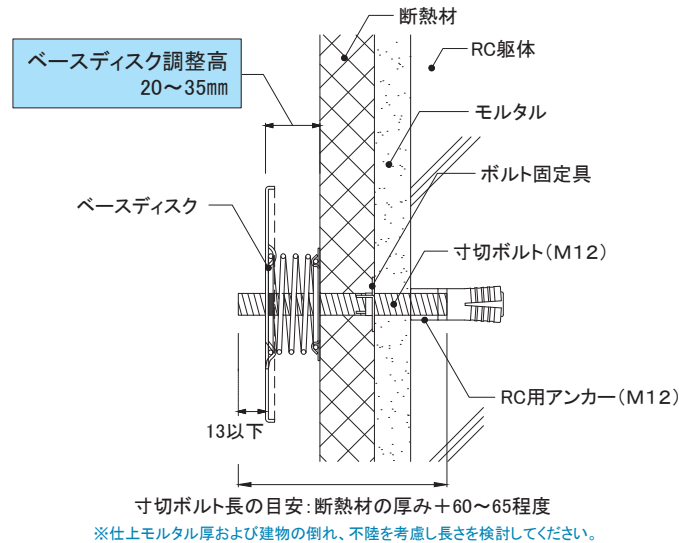
2 事前調査の方法

2-5 建物の倒れ・既存壁の不陸調査

建物の倒れ・既存壁の不陸は後の工程へ大きく影響しますので、事前に綿密な調査を行ってください。

■調査方法例(RC造外断熱 金属胴縁工法の場合)

- ① 錘重(下げ振り)を用いて、1m程度ごとに建物全体の倒れや不陸を調査します。
- ② 図面(立面図)に倒れ、不陸状況を記入し、部位ごとに使用する寸切ボルトの長さを決定します。
寸切ボルトの長さの目安は、「使用する断熱材厚+60~65mm」前後で、調査した倒れ・不陸の程度を考慮した長さのものを使用します。
なお、ベースディスク(KNR100)表面から突出する部分の寸切ボルトの長さは13mm以下としてください。



■調査方法例(RC造専用ブラケット工法の場合)

- ① 錘重(下げ振り)を用いて、1.5m程度ごとに建物全体の倒れや不陸を調査します。
- ② 図面(立面図)に倒れ、不陸状況を記入します。
- ③ 不陸が20mm※を超える場合は、不陸調整部材をご使用ください。不陸が20mm※以下であれば、不陸調整部材は必要ありません。

※鋼製胴縁サイズが50×50mmの場合は不陸25mmまで。

